

6月第4土曜日より毎月1回 『(仮称)作品研究会』を始めます

このところビデオは撮っているが、どうまとめてよいか判らない、とか例会では少しの短評しかないのでは、もっと詳しく指摘して欲しいとか、OMCに入りたいが、皆レベルが高くて入りづらいから、もっと勉強したいとか、OMC会員外も人も含めていろいろの声が寄せられています。またメーカー関連でも機器取扱の説明会の機会を設けてほしい、といった要望もあります。

これらの要望を満たすためには例会や二次会の席だけではとても無理です。そこで思い切って例会日の第4土曜日午後をそうした時間にあててはどうかと考え、6月第4土曜午後の分の会場を申し込みました。会場予約は3ヶ月前の1日に抽選の順番で予約します。土曜日夜の会場は比較的予約しやすいのですが、午後の分は希望者が多いようで、毎月確実に押さえられるか不確定要素もあるのが懸念材料であります。

会場をあらたに使用しますと、使用料が必要になります。会議室で5千円程度です。これを研究会出席者で負担することになりますので、10人ほど集まっていただくとして1人500円程度のカンパをお願いすることになります。ともあれ、例会では原則として完成作品の上映に限られますが、研究会では未完成作品でも「研究材料」として歓迎しますので、公開映写会用作品などは特に大いに利用してほしいと思います。会員外のお友達でも結構です。皆様のご支援ご協力を切にお願いいたします。

会長 合原一夫

3月例会のお知らせ

3月例会は第4土曜日27日、18時より阿倍野市民学習センターにて行います。季節も次第に暖かくなりました。月1回の例会を大いに楽しみましょう。作品のほうも遠慮なくご持参ください。

2月例会のレポート

寒さのせいかわ開会時になっても出足が今一つでしたが、終わってみれば19名の出席を得ました。作品の方も10本が出てまずまずの例会。今月より末岡さんが正式に入会され拍手で迎えられました。司会は有村さん、書記は関さん、デッキ係渡辺、奥の両氏、受付は安居良枝さんで進行。

■出席者：有村、金子、奥、合原、那須、藤原、中尾、安居夫妻、関、森、渡辺、森口、森下、松本、高田、増池、前田、末岡（敬称略）の19名

■上映作品（今月の短評は関世話役の担当です）

1. 冬の溪流 有村 博さん 5分48秒
凍てつく赤目の滝。すだれのような氷柱が厳しい寒さを感じさせます。前作の水瀑とは違った内容を意識しながら撮影されたと思いますが、ほとんどその差はありません。むしろ上下の往復パンニングを残すなど編集の荒さが目立ちました。
2. 新しい伝統芸能の定着 安居利次さん 6分50秒
住吉大社のお祭で御田植神事などで目にする住吉おどり以外に、地方に源を発したさまざまな芸能が演じられているのを知る人は少ないでしょう。この作品の田楽もそのひとつ。もとは農民の行事であったのが鎌倉室町時代、都を中心に庶民の娯楽として広く浸透したものだと言われています。それがなぜ、いつ頃から住吉大社の祭事に関わるようになったのかの説明がほしいところです。しかし謂れはともかく、たくさんの方が熱心に練習に励む光景はこころを打たれました。作者が言うように住吉おどりと同じ無形文化財にまで定着すれば良いですね。ぜひ記録を続けてください。
3. 追跡 安居良枝さん 3分40秒
仮にナレーションを消してこの作品を拝見していたら、おそらく作者の意図するところとまったく違ったイメージで受けとったでしょう。それほど映像とナレーションの内容がかけはなれていました。心の悩みや葛藤、つまり人の内面の映像化を試みる前向きな姿勢は評価できますが、それは感覚的な撮影技術と映像処理が必要。街の情景を撮ってそれに色の変化をつけても観客はどうも納得しないと思います。
4. 神戸ルミナリエ 奥 宏さん 6分40秒
ハーバーランドの夕景から始まります。ルミナリエも今年で4回目。年ごとに観光客が増え、クリスマスに至る神戸の年末行事としてどうやら定着したようです。したがって震災に触れたナレーションはもうそろそろ脱却してもよい時期ではないかと思えます。せっかくの幻想的イベント、現場音も消してムードある音楽だけにされたいかがですか。

- 5. 心象 トルコ絵図 関 剛作品 6分**
 単なる旅行記録にしたいくないと言う思いから、ひねってみたらこんなものになってしまいました。題名を「トルコの印象」にすること。ラストのコーランの声にかぶさる音楽のボリュームをもう少し下げることなどのご意見がありました。なるほど正統な分析をされたと感じ入りました。
- 6. 湖北の春はもうすぐ 森口吉正さん 6分40秒**
 水ぎわまで真っ白の雪景色、しかし鳥が遊ぶ湖面はおだやかで波静か。山里には軒から下がったツララに雪解け水がしたたり落ち、眩しいほどの陽光に椿の蕾が膨らんでいる。
 いかにも春はすぐそこという感じが表現され、ポエムとして完成度の高い作品です。最初にナレーション、そしてところどころにテロップの説明が入りますが必要ありません。かえって雰囲気は損ないます。
- 7. 丘の風景 那須典彦さん 7分05秒**
 北海道・美瑛か富良野あたり。いつものように三脚でがっちり構えた美しい景色ですが動きがないのでたいへん長く感じます。
- 8. The Lighting Magic 高田淳吉さん 5分15秒**
 ルミナリエのノンリニア映像。その幻想的な輝きに“光の魔術”と題されたこともうなずけます。期せずして今月はルミナリエが2作でできました。前者もノンリニア編集ですが、これは群衆や現地音それにナレーションもあるオーソドックス派。こちらは鮮やかな光の色彩を編集技術で見せる心象的な作風。これにはバックの音楽が作品の印象を大きく左右しますが、残念ながらコンピューター音楽の個性が強すぎて損をしています。その点 前者の選曲がルミナリエのムードにぴったりと筆者は感じましたが、例会に集う人々はどう見たのでしょうか。
- 9. 魅せられた島 合原一夫さん 9分30秒**
 ナレーションがちょっとへん。いつもの合原節に違いないのですが明治か大正時代の文書にあるような言い回しです。それはともかく、観光旅行でも「旅行にいきました」という映像には絶対にしないのがこの作者の持ち味。これは見習わなければなりません。
- 10. そして街は消えた 末岡健司さん 18分**
 今月からの新入会者です。先月見学にこられた際この方の作風は拝見済みです。どうぞ伝統あるこの会に和やかに溶けこんでください。暗やみのなかでコチコチと秒を刻む時計の音。そして5時46分、突然轟音と共に画面が激しく揺れる。作者はあの阪神大震災で最も被害の大きかった東灘区に住んでおられます。ご自宅は無事だったようですが周囲はすべて壊滅。夜が明けるとすぐにカメラを担いで街にとびだしたそうです。地震直後のその生々しい映像に思わず息を呑む始末。

地元といってもよくこれだけ冷静に記録されたものと驚きました。夜、無音。寒空の下で焚火を囲む人びと。かすかな物音にも敏感に反応する怯えた顔。おし黙ったまま炎を見つめるうつろな目、目、…。もしここで終わっていたら絶妙の余韻を残すことになり、この作品を見た人はそれぞれにさまざまな思いを巡らせたことなのでしょう。作品的にはその方が良かったと思います。危機意識の啓発を目的とするものなら、それ以後のテロップなども必要だったのかも知れませんが。

以上で例会を終了し9時少し前、喫茶組と一杯組に別れて二次会場へと席を移し、更にビデオ談義に花を咲かせました。

■新入会者：末岡健司さん 〒658-0082 神戸市東灘区魚崎北町2-9-7
TEL 078-411-1727

よろしくお願ひします。

■第4回OVCビデオフェスティバル 3月28日(日)13時開場

大阪ビデオクラブ(OVC)では、弁天町市民会館学習センターにて公開映写会が催されます。OMC会員もかなりの数の方がOVC会員でもあります関係で当クラブの会員の作品も数本上映されます。どうぞお気軽にお出掛けください。

■OMC会報第400号記念号に一文をお寄せください

4月会報は400号という記念すべき号になります(前号では次号が400号とありましたが間違っていましたので、訂正します)ので、皆さんからの感想文なり以前のエピソードなりをお寄せください(3月末締め切りです)。

(続)ラスト音楽の余韻

合原 一夫

OMCニュースNo.395号(H10.11月)で、ラスト音楽のことをうめくさとして書きましたところ、二三の反響がありましたので、今回は続報として私のやり方を紹介します。旅の映像などは特にそうですが、BGMはTOPシーンに向くもの、中間部の進行中に向くもの、ラストシーンに向くものなどがあるものです。また曲の終わりがフェードで終わるものがありますが、私は原則としてフェードで終わるものはラストには使いません。やはり曲の終わりが、ああ終わったなーと思わせるように、きちんとして終わって欲しいからです。海外旅行では現地のCDかカセットテープを買ってきますが、テープの場合これはラストに使えるなと思っただら、その曲の終わりを確認してテープを止め、裏返しして必要なラスト音楽の長さ(画面の長さをあらかじめ調べておく)だけ流し、そこでストップします。そこで再び裏返しして再生しますと、ぴったしの長さでエンドマークと共に曲も終わります。エンドマークの出始めに曲も終わった方がよいのか、或いはエンドマークの消えるまで曲を引き延ばすのかはよく話題となりますが、画面にマークがダブっている場合は、画面の消えるところで曲の終わり、画面が終わってからエンドマークがでる場合は、エンドマークに2秒位食い込むほどのところで曲が終わった方が余韻が残ってよいようです。ラストは白フェードより黒フェードの方が良いと思いますが、機材の関係で出来ないかもしれません。機材によっても曲の長さをあらかじめ設定できるものもありますので調べてみてください。曲の全体の時間を測り、必要な長さを差し引いた時間を見送ってから残りの部分だけを利用する方法もあります。要は手持ちの機材の機能を知り、扱いに慣れて自分なりのやり方を見いだすことです。